

会社自らが森林を守り人材を育成する環境づくり(高知県土佐町)

- A社は増加するシカの食害から社有林を守るため、会社独自で狩猟班を設置し、平成24年からニホンジカの駆除を開始
- 現在、狩猟免許を取得した社員14名が、くくりわなの設置や見回り等を行い、ニホンジカの駆除を実施
- 依頼に応じ、大学での講演会、県内外企業への講習会、シカ捕獲体験ツアーへの協力等、活動内容は広範
- シカの生息エリアは社有林全域に拡大しつつあるものの、一定の捕獲圧をかけ続ける事で被害の割合は減少

取組内容

- 1898年に高知県で山林事業を開始後、森林事業本部を構える同社は、急増したシカによる食害から社有林を守るため、平成24年から捕獲活動を開始



県内に3,765haの山林を所有



ニホンジカによる幹の食害により腐敗後、倒木



- 会社でニホンジカの獣道、行動範囲を調査しながら作成したシカ害マップを基にくくりわなを効率的に設置し、駆除を実施



作成したシカ害マップ



ねじりバネタイプのくくりわなを使用



頻繁なわなの見回り

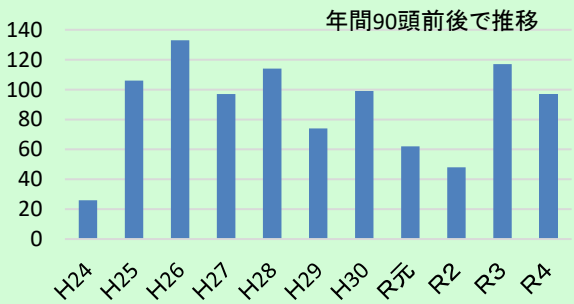
- 依頼に応じ、大学での講演会、県内外を問わず企業への捕獲講習を実施
県鳥獣対策課からの依頼でシカ捕獲体験ツアーにも協力



成果

- 早い段階での捕獲体制の構築と捕獲取組によりシカの被害が減少
- 他の企業等への捕獲講習等を通じ、これまで培ってきたノウハウを伝えることができ、捕獲従事者の意識が向上
- 今後は県境からのニホンジカの流入が予想されるため、他のエリアと連携しながら駆除を継続する必要

ニホンジカ捕獲頭数



会社自らが森林を守り人材を育成する環境づくり(高知県土佐町)

きっかけ・背景

- ニホンジカによる社有林への食害が年々増加
- 山が荒れれば、林業が成り立たなくなり、このままでは取り返しのつかないことに



課題

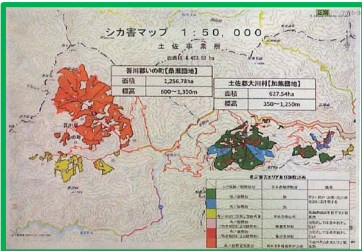
- ハンターの高齢化や減少
- 会社自らニホンジカの個体数の増加を食い止める以外に解決策はない



Step1 生息域の調査

(H22～)

- 山林の見回りにより、ニホンジカの獣道、行動範囲及びスギ等の植林の被害状況を調査し、データを収集



Step2 シカ害マッピング

(H24)

- ニホンジカの生息域等の調査データを基に、シカ害マップを作成

Step3 狩猟免許の取得

(H24)

- ニホンジカの駆除に向け、事務職を除く社員全員が狩猟免許を取得後、効率的なくくりわなによる捕獲を行った結果、被害が減少

取組の特色

- 社員が自ら狩猟免許を取得し、猟具の安全で適切な使用に関する知識と高い技術を習得
- 会社自らが山林を守ろうとする意識が高く、県外からのシカの流入を防止
- これまで培ってきたノウハウを講習会等で共有

取組による成果・効果

- 早い段階での捕獲体制の構築と取組みにより被害を最小限に抑制
- 隣県や県東部からのシカの流入を食い止めることで、高知県内(石鎚山系)のシカの生息数の増加や生息域の拡大を抑制し、シカ被害の軽減に寄与